

# 「森と水と命の惑星」国際会議

## ～地域と世界の心と魂を詠む～



塾長 梅内 拓生

(125)

「気仙の魂の奥に眠るもの」～第一中学校文化祭の詠作品から～  
 世界では、WHOが新しい健康の定義のなかで、社会の健全な発展には魂とのコミュニケーションが重要な基本であるという見方を提示しており、国連は「持続可能な発展」という考えに基づく政策を提示している。これに加え、国際機関のWWFが人間の生存活動が既に地球環境の受容能力の限界を超え、地球文明の存続に深刻な状態をきたしていることを提示している。

しかし、これらの提言をどのように現実世界に引き入れて、活かすかということは別の問題であり極めて大きな困難が横たわっている。そのためには魂の奥に触れる意識革命が必要である。  
 第1次形而上学革命は一神教の発明、第2次形而上学革命は科学の発明であり、そして21世紀の第3次形而上学革命は魂の革命であると考えられる。第一中学校文化祭の詠作品には気仙の自然と歴史の魂に触れるものが感じられる。

「1年生の作品 題 一中祭」  
 (悔しさを超えて)  
 悔しさに 次はと思う  
 先輩の 歌う姿勢を  
 心に刻み  
 中1女子

負けた悔しさを心に刻み深く受け止めて、そこから新しい力を生み出す営みを先輩の姿勢に感じ、それを自分の中に育てている情景が伝わってきます。  
 気仙地方の縄文と蝦夷の長い歴史の奥の文化の遠い脈流が浮かびあがってきます。これは、世界のいろいろな地域の歴史と文化の奥底に人類共通の脈流として眠っているものです。  
 力込め 一中祭で 合唱す  
 中1男子  
 競争と共感を生み出す合唱祭、競争と共感の中から力が湧いてきますね！  
 自分でも 成長したと言える秋  
 中1男子  
 競争、悔しき、仲間との力合わせ、いろいろな経験をして成長していることを自分で感じておりますね！悔しさのとりこになると、恨み辛みになります。が、これを乗り越える力と気持ちを分かち合う喜びになります。

（東海新報記事から）  
 11月16日（土）の第2面の気仙坂に「寒暖差、対策を万全に」が掲載されている。猛暑と急な冷え込みなど気温の乱高下が激しい最近の気象現象に関して述べている。この中で注目すべきことは寒暖差アレルギーという言葉である。  
 寒暖差アレルギーというのは、医学的には「血管運動性鼻炎」と呼ばれていて、アレルギーを見いだせないものを指すと述べている。従来の医学ではアレルギーの原因であるアレルギーを確認しその対応が行われている。即ち、原因と結果の因果関係を物質論の立場から明らかにすることで大方の対応策を講じてきているが、原因が寒暖の変化など

気象変化による広範な要因が絡み合っているときには、環境と心身との関係を視点に入れた対策が必要となる。  
 現在世界では、人口増加、地球温暖化、異常気象、環境破壊、テロや、戦争、グローバル経済の不調、国内外的な要因が絡み合っている問題が顕在化している。この大きく、複雑な問題の対応への特効薬はないが、地域で生きる価値を地域の自然と歴史、文化とのつながりから、これを掘り下げる努力を続けるなかに、世界の他地域や国の歴史や文化と話し合い、交流を深める契機がうまれてくるものと思う。